

埼玉県鴻巣市立吹上北中学校



コ ス モ ス
秋 桜



学校だより 第 6 号

学校教育目標 夢に向かって学び鍛える心豊かな生徒 -夢・学・恕- 令和元年8月29日発行

〒369-0112 鴻巣市鎌塚550 tel : 048-548-0081 fax : 048-437-1471

ホームページ <http://fukiagekita-j.konosu.de.jp/> E-mail : fukiagekita-j@city.konosu.ne.jp

甲子園から「怪物」は消えていくのか・・・

校長 関根 茂夫

大会キャッチフレーズ“新たに刻め、ぼくらの軌跡”、第101回全国高等学校野球選手権大会は、22日決勝が行われ、5-3で大阪代表 履正社高校が春夏を通じて初優勝を飾り、令和初の王者に輝いた。

私自身も「夏の甲子園、冬の箱根駅伝」の学生スポーツには特に関心が高く、今夏も多くの試合をテレビの前で観戦し、多くの感動をもらった。

正直、話題性で言えば「史上初となる2度目の春夏連覇を果たした“王者”大阪桐蔭」「秋田、東北にとって春夏通じて悲願の初優勝を目指す“公立の星”金足農業」が決勝戦を戦った昨年度の方が勝っていたが、どっこい今年の大会も見ごたえはたっぷりだった。

今年も多くの感動をもらった夏の高校野球だったが、私が見た中で最も感動的であり、また今後の課題を感じた試合は、8月17日の第3回戦、星稜一智弁和歌山戦だ。「これぞ甲子園」「高校野球の聖地」の実感させてくれた見事な試合だった。

鬼気迫る165球だった。今後、語り継がれていくことになるであろう一戦。延長14回、史上3度目のタイブレークは決着した。星稜のエース奥川は、圧巻の23三振を奪い、3安打1失点で完投した。

自己最速タイの154km/hの真っすぐに、鋭い変化球を交えて、三振を量産した。2回戦まで封印していたフォークボールを解禁。延長十回までは毎回奪三振を記録した。十一回途中、右脚をつったが「絶対に投げ切ろうと思った」。

イニング間に治療を受けた後、十二回は3者三振に仕留めた。無死一、二塁で始まるタイブレークの十三、十四回は、いずれも先頭打者のバントを、疲れを感じさせない俊敏な動きで処理。走者を送ることすら許さなかった。

十四回に福本がサヨナラ本塁打を放ったときは、一塁走者だった。左中間席に飛び込む殊勲打は「抜けるのは分かった」がスコアボードに「3」の数字が刻まれるのを見て、初めて本塁打だと知った。「勝ったんだな」と不思議な感覚になったという。

試合後に、智弁和歌山の黒川主将から「日本一を取ってくれ」と思いを託され、涙があふれた。準々決勝は連戦となり、頂点までは険しい道が待つ。

奥川は「全部出し切って、最高の夏にしたい。」全身から気力が満ち溢れていた。

～8月18日 埼玉新聞 朝刊～

1-1で延長戦に突入し、星稜のエース奥川選手に異変が起きた。右ふくらはぎが攣った。代えてあげた方がいいかな、と思ったけど、星稜の林監督は微動だにしない。チームメイトも

不安そうにしていたけれど、奥川選手本人は「俺が投げ切るんだ」という姿勢でマウンドに向かったのだ。

その姿を見ただけでも涙腺が緩んでしまった私だが、更に対戦している智弁和歌山の黒川主将が熱中症予防に効く漢方薬を試合中にくれたというエピソードを後で知り、スポーツを極めた選手の奥深い人間力を感じた。

お互い良い状態で戦いたい。対戦相手に対する敬意。相手の立場に立って物事を考える基本であるキャッチボールの精神。甲子園という舞台が高校生を成長させる。高校野球の原点を見た思いがした。

と同時に、今後の課題の難しさをあらためて感じた。

岩手大会決勝で“令和の怪物”佐々木選手を温存して敗れた大船渡高校のことだ。東日本大震災を乗り越え、地元の公立校から甲子園を目指そうと誓った佐々木選手とチームメイト、彼らを応援していた地元の人々たちはどんな思いで、この甲子園での試合を見ていたのだろうか。

スポーツは高校野球に限らず、どんな競技でも限界を超えて見えてくる領域がある、という。故障は防がなきゃいけないけど、やはり大切にしたいのは「やり切った感」。それは本人の思い、監督、チームメイトとの信頼関係の中から生まれてくるものなんだろうと思う。

これまでも甲子園7試合948球を投げ抜いた「ハンカチ王子」斎藤祐樹投手（早実）、予選から一人で投げ抜き、甲子園でも決勝戦まで878球を投げ抜いた「金足旋風」吉田輝星投手（金足農業）、決勝戦でノーヒットノーランを達成し767球を投げ抜いた「平成の怪物」松坂大輔投手（横浜）、深紅の優勝旗が初めて津軽海峡を渡った658球を投げ抜いた「現役メジャーリーガー」田中将大投手（駒大苫小牧）などなど、夏の甲子園で完全燃焼の姿を見せてくれた高校球児はキラ星のごとく数えきれない。

今、球数制限導入の動きが加速しているが、どうしても私自身は「やり切った感」「完全燃焼」の姿が忘れられない。外野からではあるが、導入に際しては選手に「むなしさ」を感じさせない制度にしてもらいたいと願う。

私は、大会を通じて全力でプレーする高校球児の姿、スタンドで必死に応援する高校球児の姿に今年も爽やかな感動をもらうとともに、来春の選抜大会、そして来夏の第102回高校野球大会が楽しみになった。やっぱり、学生スポーツは素晴らしい。

全国の高校球児のみなさん、あらためて爽やかな感動をありがとう。



ご案内

ふれあい講演会

本年度は、相馬真貴子様（さいたま市民医療センターがん化学療法看護認定看護師）をお招きし、仕事のやりがい、看護職への動機と道筋、こころと体の話、等をテーマにご講演いただきます。ぜひご参加ください。

◆9月14日（土）北翔祭午前の部にて
（9：35頃～10：30頃）

お知らせ

資源回収収益金額について

7月6日に実施いたしました本校資源回収の収益金につきまして、前号にてご報告致しましたが、鴻巣市より交付金をいただきましたので、下記の通り最終報告いたします。

| | |
|--------|-----------|
| ◆ 収益金額 | 133,990 円 |
| 交付金 | 58,830 円 |
| 計 | 192,820 円 |

夏休みの行事より

◆吹奏楽部定期演奏会（7月19日）◆



◆鴻巣市未来議会（7月23日）◆



◆鴻巣市海外派遣 オーストラリア（7月28日～8月4日）◆



◆天体観望会（8月3日）◆

